『金融経済研究』第44号，2021年12月

貨幣財需要としての公債需要
―不均衡分析から見た過去四半世紀と将来の日本経済―

齊藤　誠

〈要旨〉

本稿では，不均衡分析を通じて過去四半世紀の日本経済を分析していく．不均衡分析を適用するのは，(1)1990年代半ば以降の超低金利環境で日本経済が頻繁に財・労働市場の深刻な超過供給に陥った，(2)政府の基礎的財政収支が改善する見込みがなく，公債市場が明らかに超過供給状態にあったからである．本稿では，ゼロ近傍の金利で貨幣需要がほぼ無限に弾力的となった結果，貨幣市場の超過需要が，財・労働市場の超過供給とともに，貨幣財として密接な代替関係となった公債に対する超過供給を吸収してきたことを明らかにする．

(名古屋大学)

©Japan Society of Monetary Economics 2021